

支部だより

ラオス支部

三上綾子 (C平11)

去る1月23日、ここラオスはヴィエンチャンにて、昨年発足したてのラオス支部の集まりが持たれ、離任を目前に控えた宮本大使を交えてのぎっくばらんなひと時を過ごしました。会員は目下8名、ラオス科を始め多様な語科出身者が集い、懐かしの西ヶ原時代の話に花が咲きました。3月中旬にはJICAの西脇新所長も赴任予定で、ラオス支部はこれからの発展が期待されます。

関西支部総会

池端学長が講演—国立大学法人化で
厳しい局面に

大塚圭一郎 (F平9)

昨年4月発足した東京外語会関西支部の第2回総会が4月20日、大阪市中央区のホテルで開かれ、池端雪浦学長が「東京外国語大学の将来像」の題で講演した。池端学長は2004年度の国立大学法人化など「今ほど大学のあり方が騒がれている時期はない」と表明。情報技術(IT)の発達でグローバル化が進む中、「国境なき大学選択の時代になっている。世界の優れた大学がITの授業を売り出しており、真っ先に影響を受けるのは外大系だ」と危機感をあらわにした。また、トップ30大学に予算を重点配分するなどとした通称「遠山プラン」への対応、効率的な学内運営に取り組む必要性を訴えた。

学内改革では、同時通訳や翻訳、日本語や英語などの教育者の養成を目指した大学から大学院修士まで一貫のコースを設置する構想を明らかにした。一方、女子学生比率が65%に上る点は、女性学長をして「教育のバランスではせめて5分5分にしてほしい」と論評させた。かつて男子比率が高まるとの期待からセンター試験に数学を導入したものの、効果がなかったと苦笑して「入学試験をする限り女子が増える。大学に入ってすばらしい成績を収める学生は高校

の内申書がいいとの統計的裏付けがあり、十分に考える余地がある」と述べ、内申書評価を入試に加える意向をおわせた。

国立大学法人化に伴う財務面の課題にも触れ、財務担当副学長を外部から招聘しないと「存立が怪しい」とまで言及。増収策として受験料収入を例示し、教官や卒業生が全国の高校などで講演して受験生を募る「全国キャラバン」を手掛けることを表明、「東京外語会に助けてほしい」と要望した。既に一橋大学などが実施、効果が出ているという。

次いでテレビプロデューサーの松本武顕氏(Po昭41)が講演し、アフガン難民の姿や南アフリカの黒人独立運動などの取材を映像を交えて紹介した。政府や財団の主導で戦争責任を償っているドイツの「歴史の罪は引き受けられないが、責任は負える」という言葉を取り上げ、インドネシアでの日本軍の戦争責任について触れた。結びに、松本氏ら全共闘世代は「懸念に想像力を働かせることができる。僕らのできることはないか」と呼びかけた。

懇親会では、昨年と同様に相原春雄氏(C昭6)が詩吟を披露し、年齢を感じさせないほりのある声を披露。これに続けとばかりに、小杉裕二関西支部長(Th昭23)が田中穂積氏(Ic昭43)のギターに併せて「悲しい酒」を熱唱、会場の盛り上げに一役買った。20歳代から90歳代まで幅広い年齢層が集結し、出席者からは「池端新学長のご挨拶は迫力すら感じさせた。母校がしっかり生き残ってもらいたいと思ったのは自分だけではないと思う」「学長が会員と歓談する時間が取れなかったのが残念」「あれ程の短時間に、あれ程密度の濃い会合が持てるなんて、改めて幹事の皆さまのお力のすごさを感じた」などの意見が寄せられた。第3回総会は来年4月に大阪市内で開催する予定で、こうした声を改善に結び付けることで、さらに有意義な総会にしたいと考えている。(関西支部幹事・共同通信社大阪支社経済部記者)

ロンドン支部 新春会、幹事交代

小倉正広 (D昭57)

3月18日(月)、ロンドン外語会(TUFS UK)

の「新春会」がロンドン中心地 Mayfair のパブ Shelley's で開催されました。会は年に2、3回開催しますが、この新春会では新旧幹事の交代が行われましたので、以下ご連絡します。

この日は自己紹介、近況報告によって親交を深めたうえで、難航が予想された「新幹事の選抜」の議事が、松尾氏の名司会によって見事なまでにスムーズに行なわれました。

役職	前幹事	新幹事
会長	竹内公二 (D昭54)	小倉正広 (D昭57)
会計	井秀典 (Po昭63)	石丸慎司 (S昭61)
名簿管理	西村昇 (C昭50)	荻野倬也 (F昭46)
広報	米布由子 (S昭54)	安井純子 (C平元)
企画	岩本克巳 (Po平2)	林理佳 (R昭59)
会報	丹沢道子 (E昭61)	持田譲二 (D昭59)
新年会	松尾圭介 (R平4)	ブライアン佐々木恵 (E昭53)

竹内前会長は2月に日本へ帰国され残念ながら欠席でしたが、上記新旧幹事の他、以下の合計20人の参加となりました。進見幸輝 (E昭41)、石野斗茂子 (E昭63)、桑原景子 (Ph平8)、佐久間温子 (Po平8)、赤羽根由実 (V平12)、西村夫人、赤羽根女史友人。

この1年頑張っていたいただいた旧幹事陣へ惜しめない拍手が贈られました。また、名簿作成管理にあたっては西村昇氏だけでなく裕紀子夫人のお手も煩わせましたことを感謝を込めて特記します。更にこの場をお借りして、長年続いて来たロンドン外語会の歴代会長、幹事の方々、そして活動を支えてくださった皆様に心から御礼申し上げます。来て2年足らずの私が知る範囲のお名前を挙げるだけで大変恐縮ですが、乾哲夫 (C昭35)、原田豊 (S昭40)、土屋陽一 (F平2)、石野斗茂子 (E昭63)、土屋創 (I平元) と黎明期の功労者、中興の祖、名誉幹事とも呼ぶべき方々がいらしたと思います。諸氏に感謝の意を表します。おかげさまでロンドン外語会は年によって人数の増減はあるものの、会員にとって心温まる集いの場になっています。

当会では皆様の訪英を歓迎致します。また、先生方や著名な同窓生の来英日程に合わせて会を開催したいと考えておりますので、ご来英の際には10日前位にご連絡下されれば幸甚です。

今回は7月頃に指揮者村中大祐氏 (D平2) を交えて開催する予定です。村中氏は昨年出光音

楽賞を受賞してTVにも何度も出演している、ローマ在住の指揮者で、現在英国グランドボーン音楽祭の歌劇「ドン・ジョバンニ」の副指揮者を務めるため8月まで南イングランドに滞在中です。TUFS UKのメンバーは、この会以外でもビジネスランチ、サッカーグラウンド、ゴルフ場、ヒースロー空港、コンサート会場、カラオケラウンジ、商談…と様々な活躍(?)の場で顔を合わせています。会は今後も趣向を凝らして、皆が何とかスケジュールを調整してもあれだけは参加したい、と思えるような和気藹々として、楽しいものになりたいと思っています。

上海支部

黒木良之 (C平6)

当地外語会には本年4月末で52名の会員がおります。年1回の定期親睦会の他、親睦ゴルフコンペや大阪外語会(約50名)との対抗コンペを年に4~5回開催しております。2月1日には、大阪外語会と合同で新年会を上海花園ホテルにて初めて開催し、約50名が参加し盛会となりました。またこの程上海で発足した神戸外語会からも、合同でコンペなどを開催したいとの申し入れもあり、益々の盛り上がりを見せております。更に、若手駐在員を中心とした「西ヶ原四丁目町内会」なる会合を毎月開催しており、世界の東京外語会海外支部の中でも、一番結束が固いのではないかと自負しております。

現在上海領事館に登録している日本人は約7千人、実際には約2万人が長期滞在しています。中国の「社会主義市場経済」「改革開放」が紙上を賑わしてから早10年が経ちますが、近年この上海地域では、近郊の蘇州、無錫地域への日系企業の進出が激増しており、日本人の駐在が増加傾向にあります。

東京外語会の皆様方、お立ち寄りの際には是非、ご一報下さい。

日本では出会う機会がなかった、いやあり得なかった同窓が偶然にも海外で出会い、語らい、酒を酌み交わし、繋がりの輪を広げていくことが如何に心地よいことか、会のメンバーひとりひとりが切に心に感じております。ひとりでも多くの同窓の方々と、この上海でお目にかかる機会のあらんことを、と楽しみにしております。